

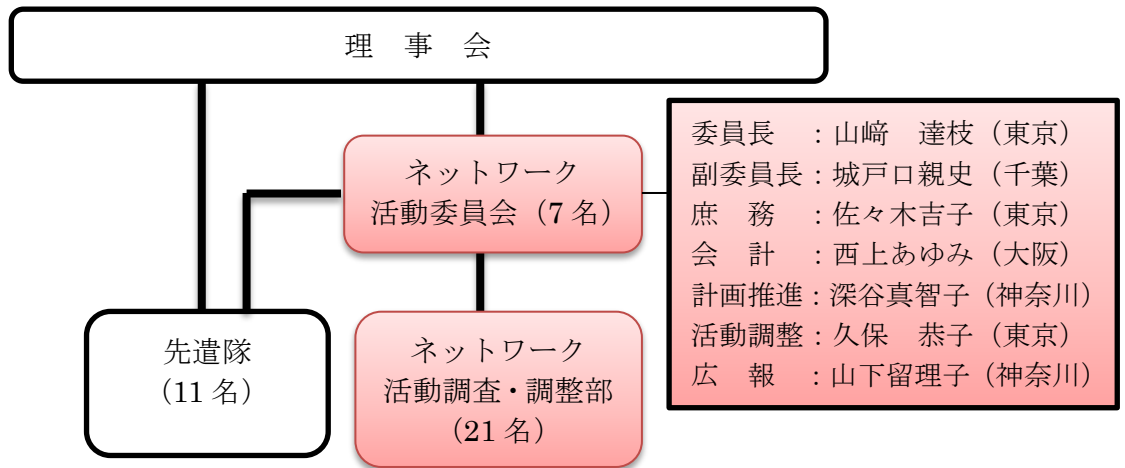
# 一般社団法人 日本災害看護学会 ネットワーク活動委員会

## 【本委員会の任務】

学会設立の趣意の一つである災害看護に関する知識体系の確立に向けて、国内の災害時の看護ニーズについて調査・情報収集を行い、そのデータを蓄積し、災害看護の知識の構築に貢献することをめざしています。

## 【会の体制】

「ネットワーク活動委員会」・「ネットワーク活動調査・調整部」・「先遣隊」の 3 組織から構成されています。



## 【調査・調整部メンバーの所在】



**【ネットワーク活動調査・調整部 活動の定義】**

予め月担当者を決め、国内災害を対象に常時モニタリングを行い、一定基準を超えた災害に対し初期調査、初動調査、継続調査を行っています。

調査種類	内容
初期調査	初期調査とは、被災地に配慮した適切な方法（電話・インターネットなど）で、被災地の組織会員や個人会員等のネットワークを活用し、被害状況の確認、ケアニーズ等の把握を行うことを目的とする。
初動調査	初動調査とは、直接、被災地に赴き調査を行う方法を用い、直接的に被害状況の確認、ケアニーズ等の把握を目的とする。
継続調査	継続調査とは、初動調査および先遣隊活動で、長期的な被害が予想された場合、適切な時期に、直接、被災地に赴き調査を行う方法を用い、直接的に被害状況の確認、災害に関する中長期的な対応や課題等の把握を目的とする。

**【ネットワーク活動調査・調整部 活動の基準】**

地震	震度 5 以上(震度 6 強以上は初動調査の必要性を検討する)
水害	避難警報が出て、避難所が開設された場合
竜巻	F2(藤田スケール)以上の竜巻 (F3 以上は初動調査の必要性を検討する)
人為災害	負傷者が 15~20 名以上
その他	土砂災害、噴火、雪害、高潮・津波、副振動 etc.

**先遣隊活動**

1. 先遣隊の目的

- 1) 大規模な災害が発生した場合、災害看護の専門家として現地に入り、健康問題、看護ニーズ等の情報収集と査定を行い、必要な看護支援を明確にする。査定を行う際には看護ケアを実践しつつ、支援体制作りに必要な情報提供、助言や関連諸機関への橋渡しを行っています。
- 2) 本活動は原則として国内の災害を対象とし、活動を通して災害看護の知識の蓄積に貢献します。

2. 活動時期

災害直後～3 日以内に現地に入り目的を遂行する。活動期間は活動の目的、メンバーのストレス・疲労等を考慮し、原則として 1 名につき 3 日間以上 5 日以内（最大でも 1 週間以内）とする。現地の状況によっては、必要に応じて交代は可能とします。

3. 先遣隊登録者

本活動の目的を果たすことができる災害看護のエキスパートを先遣隊登録者とします。先遣隊登録者は事前登録を行います。登録する場合は先遣隊研修を受け、理事会で承認を得ます。

先遣隊登録者(平成 29 年 5 月～)	
臼井 千津	大野かおり
小原真理子	金澤 豊
河原 宣子	酒井 明子
立垣 祐子	西上あゆみ
三澤 寿美	山崎 達枝
渡邊 智恵	